

派遣先所属 福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室

氏名 古川 陽一 (ふるかわ よういち)

派遣期間 平成28年4月1日～平成30年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室では、「福島イノベーション・コースト構想」に基づき、新技術や新産業を創出し、浜通り地域の早期復興を目指すロボット産業の一大拠点となる「福島ロボットテストフィールド」の整備を行っています。当室は昨年度から立ち上がったばかりの新しい部署です。当室の構成は、室長（経産省出向）、プロパー職員（事務系）5人、プロパー職員（技術系）2人、他県応援職員2人（愛知県・東京都）と私の計11人で業務に従事しています。

当室の主な業務は次のとおりです。

ロボット産業推進室

29年度福島県のロボット産業推進事業

研究開発
拠点整備

普及・啓発
人材育成

ネットワー
クの形成

研究開発
技術支援

現場導入
支援

取引拡大
量産支援

情報発信

福島ロボットテストフィールド整備事業

物流・インフラ点検・災害対応などに使用される陸海空のフィールドロボットを対象としたロボットテストフィールドと先進的な共同研究を行う国際産学官共同利用施設を整備する。
○場所 南相馬市(一部附帯施設 浪江町) 約50ha
○時期 平成30年度から順次開所予定
◎11/20に研究棟パース図及び各施設の開所見込時期公表



ロボット関連産業基盤強化事業

ロボットの要素技術の開発や実証を行う県内に本社、研究拠点、生産拠点が所在する企業に対し補助を行うとともに、技術力向上のための支援を行う。
○補助率：中小企業 事業費(上限1千万円)の3/4
大企業 事業費(上限1千万円)の2/3
○公募期間：4/12～5/12
○29年度採択件数：11件(募集終了)

産学ロボット技術開発支援事業

会津大学と県内企業との連携により、情報通信技術を核とした災害対応等ロボットの開発を行うとともに、ロボットのソフトウェア開発運用基盤を先端CTラボに整備し開発支援を行う。

被災地支援ロボット開発事業

ハイテクプラザと農業総合センターの共同研究により、電気防獣柵の漏電検出・通報装置と電気防獣柵の漏電予防のための自作式電気防獣柵除草ロボットを研究開発する。

フィールドロボット研究開発事業

ハイテクプラザにおいて配管内洗浄ロボットの開発を行う。
配管洗浄イメージ

地域復興実用化開発等促進事業

浜通り地域の地元企業との連携等による地域振興に資する実用化開発等の費用を補助する。
○補助率：大企業1/2、中小企業2/3
○対象分野 廃炉、ロボット、エネルギー、環境、農林水産業等
○ロボット分野採択件数：継続：12件、新規12件

外資系企業投資促進支援事業(進出企業投資支援事業)

本県に進出する海外企業に対し、土地建物等の賃借料、設立手続・在留資格取得・職員採用等に関する経費を補助する。
○補助先 外資系企業
○補助率 3/4以内(上限10,000千円)

災害対応等ロボット導入事業

県産ロボットの導入補助によって、県内企業のロボット関連産業への参入意欲を高め、その産業集積を図る。
○補助先：県内外企業等
○補助率：1/2
○対象：①県内で生産されるロボット
②用途：災害対応、廃炉、インフラ点検、農業散布等
○公募期間：6月15日～12月15日

福島ロボットテストフィールド広報・発信行事事業

○国際ロボット展出展(11/29～12/2)
○第2回ロボテックス出展(1/17～19)
○Japandrone2018(3/22～24)
○ドローンフェスタin南相馬(10/21～22)
【小高祭りと同時間開催】
○ドローンフェスタin浪江町(11/25～26)
【浪江町十日市と同時間開催】

福島浜通りロボット実証区域

浜通り15市町村の公共施設等をロボット実証試験場所として提供。
○公募開始：H27.4.1～
○実施市町村：相馬市、南相馬市、浪江町、楳葉町
○実績：98件、延べ360日間以上の実証試験を実施
>10/26
JUTMの36機関が参加した大規模実証試験
>【NEDOとの協力協定関係】
-11/27～12/1【第一弾】
スカパー-JSAT
-2/15 SUBARU 他

ロボットフェスタふくしま開催事業

第3回目となる今回より2日間開催として、初日を商談をメインとした展示会、2日目を商談＋一般向け展示会とする。
○期日 平成29年11月22日(水)、23日(木・祝)
○場所 ビッグバレットふくしま(郡山市)
○出展者 74企業・団体 約100小間
○来場者 8,400人(初日：1,800人、2日目：6,600人)
※航空宇宙フェスタふくしま(同時開催)

新・ふくしまロボット産業推進協議会開催事業

ロボット産業の集積を図るため産学官からなる協議会を設立し、展示会出展やマッチング支援等の事業を実施する。
○設立総会：5/22 約280名参加
○会員数：約260団体・企業等
○廃炉・災害対応ロボット研究会、4検討会にて活動
◎12/20福島県内企業・大学廃炉・災害対応ロボット関連技術展示実演会(楳葉遠隔技術開発センター)

新・ふくしま地域創生人材育成事業

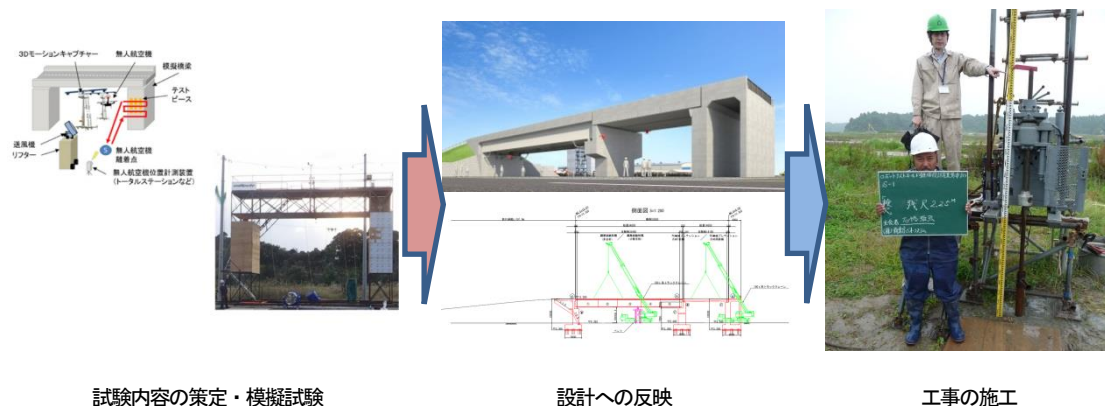
【産業人材育成課】
ロボット関連産業やものづくり分野を対象に、産学官連携による地域ニーズに対応した人材育成の取組を行う。
○在職者向けカリキュラム
○雇用型訓練向けカリキュラム

担当業務としては以下の業務を担当しております。

①「福島ロボットテストフィールド」整備事業

東日本大震災・原子力災害で大きな被害を受けた浜通り地域に、物流やインフラ点検、大規模災害などに対応する陸・海・空のロボットの実証や先端研究の場としての活用が期待されるものであり、浜通り地域へのロボット産業の集積と雇用の創出を目指して整備している事業です。

業務の具体的な内容は、国や各企業や大学とのロボットの性能試験項目について調整を行い、その結果を基に福島ロボットテストフィールドの設計に反映、実際の工事の施工監理といった一連の業務です。



試験内容の策定・模擬試験

設計への反映

工事の施工

②福島ロボットテストフィールド広報・発信催行事業

福島ロボットテストフィールドを整備するに当たり、利用者の集客や、県民の関心を高めるために各種展示会への出展やイベントを開催することによって、福島ロボットテストフィールドや、「ロボット産業革命の地ふくしま」に関するPRを行う事業です。

私が担当している業務の具体的な内容は、地元の気運醸成のためにドローンのFPV レースの開催や、ドローンの操縦体験の実施、インターネット動画を使った福島ロボットテストフィールドのPR等です。



障害物ドローンレースの様子

プログラミングでのドローン操縦体験

ネット動画でのイベント状況の配信

担当業務では、現場で被災者の方に直接相対する機会はありませんが、実際の津波や原子力災害の影響を受けた地域での業務がメインとなっていることから、震災後6年以上たっても回復していない津波の爪痕等をよく目にし、まだ復旧・復興への道のりが長いことを感じます。

私自身の業務が、浜通り地域の産業復興に貢献し、生活基盤の回復だけではなく、日本をリードする「ロボット産業革命の地ふくしま」となるように引き続き業務に励みたいと思います。

2 被災地の復旧・復興の状況

福島県は東日本大震災の津波等の直接的な被害だけでなく、原子力災害による被害という目には見えない被害にも復興に向けて取り組んでいます。福島ロボットテストフィールドでの国際ロボット競技大会の開催、原子力災害による風評被害、6万人近い方々が県内や県外への避難を続けている現状等々。福島県で働いていると、明るいニュースと暗いニュースを交互に耳にします。震災から6年以上経過して復興へ着実に進んでいる部分と、課題が多く残っている部分の2極化が起きている現状があります。

しかし、着実に復興への歩みが着実に進んでいるとは感じる場面は多くあります。かつては避難指示区域であった町で避難指示が解除され、その区域で伝統的に行われていたお祭りが震災以降7年ぶりに地元で再開され、3万人の来場があったり、長らく強い風評被害を受けていた県産の水産物が震災後初めて輸出予定であったり、厳しい現状を聞く一方で、復興に進む明るいニュースを良く耳にします。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県派遣2年目となり、福島の各観光地などを巡り、福島県での生活を楽しんでいますが、日々の業務の中で埼玉県の魅力や繋がりに気付いたり、驚いたりすることがあります。例えば、世界的な人気の秩父のベンチャーウイスキー社のイチローズ・モルトですが、その出生には、福島県の郡山にある笹の川酒造が大きく関わっており、今でも両社の絆の深さを耳にします。また、日本の無人航空機産業をリードする朝霞の株式会社エンルートは、資本提携企業の株式会社エンルートM'sが福島県内にあり、浜通りでは新型ドローンの開発等を行っており、福島ロボットテストフィールドで実証試験を行っていたりします。

酒や先端産業で、思いがけない埼玉との繋がりが、繋がりにから埼玉の良さを福島県で生活することで知ることになりました。今後この福島県での経験を埼玉県に戻ってからの業務に生かしたいと考えています。



飯坂温泉でのグランピング



土湯温泉をドローンで撮影



第一只見川橋梁からの紅葉の様子